

踏みとどまった理由を考えると、個人の心身について言えば、生来の体力に加えて、それまでの勉強、知らず知らずのうちに実行していた激しい禅修行などにより、精神肉体が人間として通常レベルを超えていた、ということ。

また、外的要因としては、君主の久光ですら手を下せない程の仕事師としての凄み、すなわち周りの者が西郷を必要とし、殺させないように仕向ける力が働いたのであろう。

それに、もう一つは、覚悟か。

「氷川清話」の中で勝がこう言っている。

「俺なんざあ、何度も死ぬ目にあつたな……いざとなるといくら禅などで練り上げていても、大抵の者は乱れてしまうものだよ

“斬り結ぶ太刀の下こそ地獄なれ、踏み込みゆけばあとは極楽”

これは昔、剣客が言ったことだが、悟道徹底の極は、つまりこういう心持ちのうちに潜んでいるのさ」

島での西郷の心境は、これに似たものではなかったろうか。

ただ、覚悟があっても、無我の境地にいられても、死ぬ人は死ぬ。

逃げ腰になったら地獄。しかし、立ち向かっていったら大丈夫かと言えば、保証の限りではない。お陀仏のケースもある。勿論、このお陀仏、カッコいいですがね。

そう考えると最後は「運」か。

**西郷は、真っ向から向かっていった。**

そして「運」良く死ななかつた。